

Title	リアルオプション・アプローチを意識した日本の事業会社によるベンチャー企業投資
Sub Title	
Author	大照紳吾(Ooteru, Shingo) 鈴木貞彦
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2001
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2001年度経営学 第1670号 不可
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002001-1670

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	鈴木 研究会	学籍番号	80028213	氏名	大照 紳吾
(論文題名)					
リアルオプション・アプローチを意識した日本の事業会社によるベンチャー企業投資					
(内容の要旨)					
<p>日本の事業会社にとってベンチャー企業への投資が経営戦略上、重要な意味を持ち始めている。なぜなら今日ではベンチャー企業への投資の巧拙が事業会社の競争力にも影響するような状況になりつつあるからである。しかしながら日本の事業会社は必ずしもベンチャー企業に投資することによって株主資本価値を生み出しているとは言えない。米国においては日本の事業会社によるベンチャー企業への投資資金は「No value added money (付加価値のないお金)」、「Dumb money (愚かなお金)」と呼ばれているのが実態である。本論文では日本の事業会社がこのような状況に陥ってしまった原因をベンチャー企業への投資における柔軟性のなさに求めた。すなわち事業会社がベンチャー企業に投資する場合、様々なリアル・オプションを保有し、それを活用することが可能であるにもかかわらずそれができていないということである。具体的にはベンチャー企業への投資を段階的に行うことで投資を途中で取り止めることが可能となる段階オプション、ベンチャー企業に投資することで更なる投資機会を得る成長オプション、投資先ベンチャー企業が事業不振に陥った場合にその経営を立て直すオペレーション・オプション、投資先ベンチャー企業の株式を売却、もしくは投資先ベンチャー企業を清算する撤退オプションである。本論文ではこのようなリアル・オプションを保有し、活用することで事業会社がベンチャー企業投資によって株主資本価値を創出する割合が高まることを明らかにすることを目的とするものである。</p>					